

## 糖尿病に関わる検査について

### 〈血糖値と HbA1c〉

糖尿病とは、血糖値が慢性的に高くなる病気のことです。血糖値は血液中に含まれるブドウ糖の量です。

食べ物が消化されて作られるブドウ糖は、膵臓で作られるインスリンというホルモンの働きで細胞に取り込まれ、エネルギー源として使われます。

しかし、インスリンの量が少なかったり、働きが悪いと血液中のブドウ糖の量が増えてしまい、高血糖になります。

糖尿病かどうかを判断するために以下のような基準値があります。

～糖尿病と診断するための基準値～

- ① 空腹時血糖値  $\geq 126$ mg/dl
- ② 75gブドウ糖負荷試験2時間値  $\geq 200$ mg/dl
- ③ 随時血糖値  $\geq 200$ mg/dl
- ④ HbA1c(NGSP 国際標準値)  $\geq 6.5\%$
- ⑤ 糖尿病の典型的症状(口渇、多尿、多飲、体重減少)
- ⑥ 確実な糖尿病網膜症

HbA1c はなにを表しているのでしょうか。

HbA1c とはブドウ糖と結びついたヘモグロビン(糖化ヘモグロビン)です。

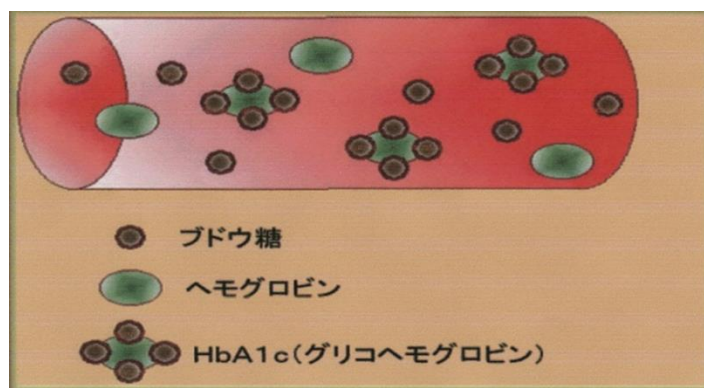
血糖値が高いほどヘモグロビンに結合するブドウ糖の量が多くなります。

いったん糖化したヘモグロビンは、赤血球の寿命(120日)が尽きるまで元には戻りません。

つまり現時点より過去1～2カ月間の平均血糖値を反映しているということです。

血糖値はその日の食事内容、体調、ストレスによって変化しますが、

HbA1c は安定した値を知ることができ、長期間の血糖コントロールを推測することができます。



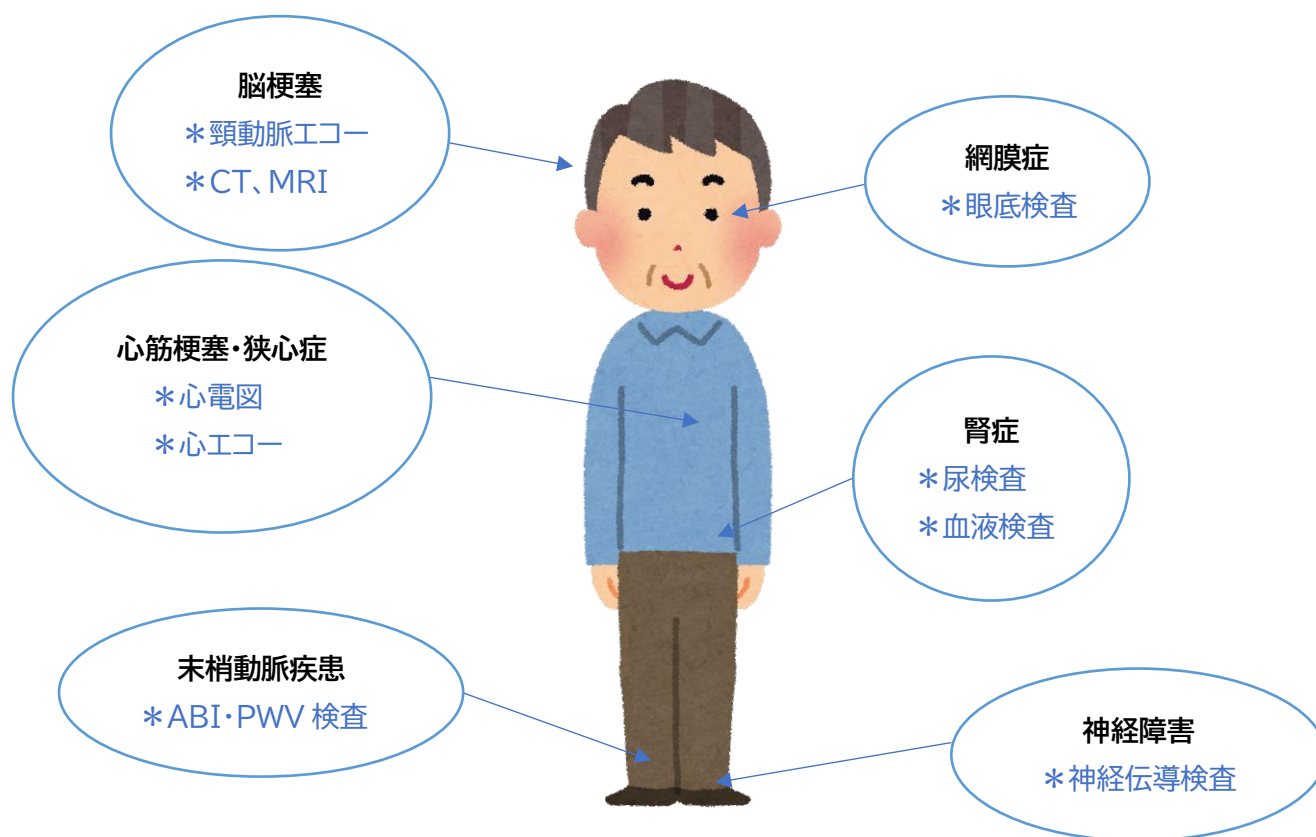
## 〈合併症の検査〉

そして血糖値が高い状態が続くと、自覚症状がないまま次第に全身の血管が傷ついていき、様々な合併症を引き起こしてしまいます。

細い血管の合併症に分類されるのは腎症、網膜症、神経障害です。

太い血管の合併症に分類されるのが動脈硬化です。そのなかでも、心筋梗塞や脳梗塞、下肢の閉塞性動脈硬化症(末梢動脈疾患)などが挙げられます。

合併症を調べる検査には様々なものがあります。



※必要に応じて他の検査も行います。

合併症を引き起こさないように糖尿病の療養を行っていくために、普段定期的に行っている採血結果や検査に興味を持っていただけたらと思います。